



医学部だより

第15号

2007.10.1



医学教育改革に向けて

医学部長 松本俊夫

病気の原因となる新たな因子が同定されると、瞬く間にこれが新たな治療法の開発へと繋がり、この因子に対する阻害薬や産生促進薬などの開発が進みます。そして臨床試験の後に新薬が認可されると医療現場に登場して来ます。その治療効果が優れていればたちどころに世界中の標準治療薬となり、これを使用すべき対象に使用しなければ責任が問われるという事態にもなりかねません。一方、特異性が高かったり作用が強力な治療薬などは使用対象を慎重に選択すると共に使用法や使用量などにも緻密な配慮が必要となります。したがって、治療に伴う副作用などを含め予め患者さんへの詳細かつ丁寧な説明の上で同意を得る必要があると共に、治療内容に即した看護が要求されます。医療機器の進歩も目覚ましく、新たな放射線診断機器や治療機器が次々に開発されるほか、血中尿中の診断指標に対する測定法の開発も日進月歩が続いています。

これら最新の診断・治療法は、一つ使い方を間違えると深刻な結果をもたらしかねず、医療提供者の責任が問われることとなります。こうして医学・医療が進歩すればするほど医療従事者に対する社会の要求は高くなり、したがってその責任も重くなります。医療はあくまでも人間が行う行為であり、人間が行う限り必ずミスは発生します。しかし、これを最大限に回避する責務が医療人にはあり、その為の相互教育、相互確認、相互連携と相互協力が職種を越えて益々必要となってきています。

この様な医療現場を取り巻く環境の中で、最新の治療法を駆使して治療に当たる医療従事者にはこれらの進歩に対応した変革が常に求められています。医師としてたゆまない進歩に即して最先端かつ安全な医療を患者さんに提供するには、専門領域をある程度限定しその範囲内で最善の医療を提供せざるを得な

くなります。しかし一人一人の患者さんが単一あるいは少数の専門領域のみに留まる病状を呈することはむしろ少なく、幅広い領域の医師間での連携と協力が欠かせなくなります。また生活・食事習慣が疾患の発症や増悪に大きく関わる生活習慣病に起因する死亡率の大幅な増加に伴い、食事管理や栄養指導の重要性は益々高まっており、栄養士と医師の連携による病状に沿った食事内容の適切な評価や指導が不可欠となっています。看護師として看護に当たる場合にも、次々に登場する新しい治療法や診断法に合わせた看護が必要となります。検査技師や放射線技師としても、新たに開発された診断法の能力や限界およびその安全性への配慮などを十分理解した上で、新しい検査診断法を駆使した検査に当たる必要があります。こうして、最新・最善の質の高い医療を安全に提供する為には、同じ職種内での領域間を超えた横の連携に加え、異なる職種間での密接な連携が従来に増して重要となりつつあります。

医学の急激な進歩を患者さんに提供する医療の中に安全かつ最大限に活かして行くには、医師と共に栄養、看護、検査などあらゆる領域における医療従事者が一丸となって、相互の教育、連携、協力の下で最善の効果をj得る医療を提供しつつ、常に相互の確認により信頼できる安全なチーム医療を展開する必要があります。この様なチーム医療の担い手を育成する上で、徳島大学医学部は医学科、栄養学科、保健学科の3学科を備えており、優れた医療従事者の育成に必要な教育機関として全ての要件を備えています。徳島大学医学部は、常に医学教育のあり方を真剣に問いつめつつ変革に対応し前進を続けています。そして社会から求められる優れた医療従事者の育成を通じて社会に貢献していきたいと考えています。

特集

「医学教育改革の取り組み ～求められる医療従事者の育成を目指して～」

文部科学省 平成18年度現代GP採択プログラム 「医療系学生の保育所実習による子育て支援 ～医療職(医師、看護師)を目指す学生の人間力を高める～」

徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部
医療教育開発センター 副センター長 寺嶋 吉保

大学教育では、専門教育だけでなく、基本となる人間力も育成してバランスの取れた有能な人材を世に送り出すことが要求されています。特に医療現場では、患者さんやご家族、様々な医療職等とのコミュニケーション能力の向上が求められています。

この取組は、医療系学生における人間性教育の改善をするため、子育て支援による地域貢献の教育プログラムとして申請し採択されました。2006年度後期に医学科20名の選択授業として行い、2007年度は、全学共通教育の一環として医学科(95名：前期45名、後期50名)と看護専攻(前期70名)の1年生全員の参加で実施しています。来年度からはさらに広く他の学部でも実施される予定です。

授業内容

- ①「気づきの体験学習(人間関係を学ぶ基礎編)」学内でコミュニケーションスキル演習(4回)
- ②「乳幼児との継続的交流(人間関係を学ぶ実践編)」保育所の特定乳幼児とパートナーとなり午前中半日の1対1の交流実習(10回)
- ③市内の6ヶ所の児童館にて子育て支援ボランティア体験実習(1回、19年度より実施)
- ④最終回：振り返り

学生は、多くの気づきを得ています。毎回親しくなったパートナーから頼りにされていることを実感します。この人の役に立つ喜びの実感が自己肯定の基礎になり、将来一人の人間として患者さんの前に立つことに繋がると考えています。また、普段の学生同士の付き合いの中では見せる事が少ない無邪気な笑顔をお互いに見せ合うことで、自然と本音で自己開示をできる友人関係＝仲間になることができ将来のチーム医療の基礎となるでしょう。さらに高学年での臨床実習で病気の子供と会う前に、健康な乳幼児を体験的に理解する専門準備教育となり、乳

幼児を好きになる、親の立場も理解する体験から将来小児科や産婦人科などに関心を持つ学生が増え、自分自身が結婚し子供を持つ事に肯定的になれると期待されます。



備考

医療教育開発センター：

医学部を含む蔵本キャンパスの医療系3学部7学科5大学院教育部の共通する課題や統合的な医療人教育の企画や調整を担当しています。

「現代GP」：

「GP」とは「優れた取組」を表す「Good Practice」の頭文字をとった通称です。「現代的教育ニーズ取組支援プログラ

ム」の通称を「現代GP」と言っています。文部科学省は、各大学への交付金を毎年減額しつつ、各大学の新しい優れた取組を支援する「国公私を通じた大学教育改革の支援の充実」事業に今年度は602億円の予算を投じています。競争的資金であり、各種申請の採択率は20%前後です。徳島大学は、2006年度6つ（全国2位）のGP予算を獲得して、今年も多く企画を申請しています。

参照 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/index.htm

医学研究実習（研究室配属）

医学部長，教務委員長 泉 啓 介

平成19年度から開始した医学科新カリキュラムでは形だけまねた米国型の医学教育カリキュラムの見直しを図った。平成16年度から初期臨床研修が必修化になり、平成17年度から全国共用試験（CBTとOSCE）が正式に開始された現状をふまえた上で、実現可能かつ効果的な基礎および臨床医学教育システムに変更したものである。研究室配属に関しては、3年次にほぼ1年間にわたり午前中は基礎医学、社会医学、臨床医学入門の講義・実習、午後に蔵本地区の研究室に所属して教員の指導の下に生命科学を行うことにした。研究テーマは学生自ら考えるかもしくは指導教員と相談して決める。時間的にはこれまでの約2倍になるが、全学共通教育（英語）とチュートリアル教育の自習時間を削ることにしたものであって、基礎、臨床

とも講義時間は減らしていない。

多くの国立大学は「基礎配属」として研究室配属を実施しているが、多くの私立大学はこれ自体を実施していない。希望者には夏期休暇を利用した8-10週間のテキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンターでの研究実習を計画している（「医学部だより」第14号参照）。費用の一部を補助する予定である。幸い疾患酵素学研究中心、ゲノム機能研究中心に加え薬学部の一部の分野もこの研究室配属に協力してくれることになっている。医学そのものがサイエンスであることを認識し、生涯にわたり研究マインドを持続できる多様な人材が基礎でも臨床でも育つことを期待している。

4-7月		9-12月		1-3月	
3年	医学入門 生理学 薬理学	病理学	医学入門 病理学	法医学 衛生/公衆衛生学	臨床医学入門
	研 究 室 配 属				

医学入門： 医学心理学，実験動物学，医学英語

国家試験対策への取り組み

教務委員 久 保 真 一（法医学分野）

本学の医師国家試験合格率が、国公立大学の中で下位に低迷しています。新卒での不合格者に、卒業生成績の下位者が多く含まれているのは考えることですが、成績中位者においても、不合格者が散見されております。これは卒業試験と国家試験の間隔が短く、卒業試験から国家試験への対策の移行に問題がある可能性が考えられます。そこで、本年度から医師国家試験の模擬試験を、講義室を開放し、実施することにしました。

これまででも学生は、自主的（自宅等で）に模擬試験を受験していましたが、本番の国家試験と同様の日程（3日間連続）で、講義室を会場として、実施することにしました。さる7月17-19日に、6年生の第一回模試が実施されました（写真：講義室での模擬試験の受験風景）。今後、9月、12月、来年の1月にも、6年生の模試を実施予定です。また、模試については5年生にも年に2回程度実施する予定で、学生と調整をしています。病院実習の学年である5年生にも知識の定着の程度を模試で図り、学習の目安にしておもらおうと考えて



おります。

国家試験の対策として、取り組むべき課題は他にもありますが、今年度から、まず模擬試験の実施に取り組むことにしました。学生、保護者の皆様にはご理解を頂きますようお願い申し上げます。

栄養学科における管理栄養士養成のためのカリキュラム改正

栄養学科長 宮本 賢一

徳島大学医学部栄養学科は、我が国の栄養学の教育研究の中核拠点として設置された。栄養学科の創設に当たって文部省大学設置審議会は、次のような見解を明らかにした。「この栄養学科の教育課程は、栄養に関する学術研究者の育成を主たる目的として編成されるべきであるから、管理栄養士の資格を取得するものとは必ずしも一致せず、後者の目的の為には、必要に応じて選択科目を用意すれば足りる」(昭和39年10月16日、大学設置審議会総会)。このような指針をもとに、栄養学科の教育カリキュラムは編成された。しかし、現実には、管理栄養士資格を活用しなければ研究教育者への道も閉ざされてしまう事になる。このような矛盾を解決するために、これまで様々な工夫がなされてきた。以下、栄養学科の新しい教育カリキュラムの経緯について概説する。

平成12年に改正(同14年施行)された栄養士法は、管理栄養士制度のあり方と期待される業務に関する法的基盤を明確にした。この法律改正に対応して、栄養士養成課程から4年制大学管理栄養士養成課程への改組や新設が急速に進んできた。平成12年から17年迄の5年間で、管理栄養士養成施設は41施設から102施設(平成18年現在106施設)まで大幅に増加した。このような改正に伴い、管理栄養士育成のための「教育内

容」と「教育目標」が設定された。平成13年には「管理栄養士・栄養士養成施設カリキュラムに関する検討会」が、さらに平成14年8月には「管理栄養士国家試験の出題基準(ガイドライン)改正検討会」が、それぞれ報告書を取りまとめた。現在の管理栄養士教育内容は、基本的に、管理栄養士国家試験出題者のための問題作成基準(ガイドライン)に沿って行われている。これらの教育内容は、様々な専門領域を目指す管理栄養士にも共通して必要な学習内容と、それぞれの専門領域に特化された学習内容が一括して含まれている。そのため、学習すべき内容は、極めて広範囲かつ詳細にわたっている。つまり管理栄養士教育を、多様で変化の著しい社会的ニーズに効果的かつ柔軟に対応できるものとするためには、柔軟なカリキュラム編成を可能とする考え方が基本になっている。本栄養学科のカリキュラムは、教育目標の異なる農学系、家政系、薬学系、看護系に設置された管理栄養士施設との違いを明確にする為、医学や栄養学の基礎・基本を重視した学習内容になっている。とくに「人体の機能・構造と疾病」ならびに「食べ物」に関する教育内容を重視したカリキュラムを導入した。このようなカリキュラム改正により、高い応用能力を有する管理栄養士の育成ができることを期待している。

保健学科・保健科学教育部の教育改革

保健学科長 長 篠 博文

平成14年に第1期生を迎えた徳島大学医学部保健学科は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻で卒業生を昨年・本年の2期、社会に送り出しました。また、昨年4月に設置され、医学部保健学科と一体として運営されている1年制の助産学専攻科は、さっそく本年3月に第1期生の修了生を社会に送り出しました。

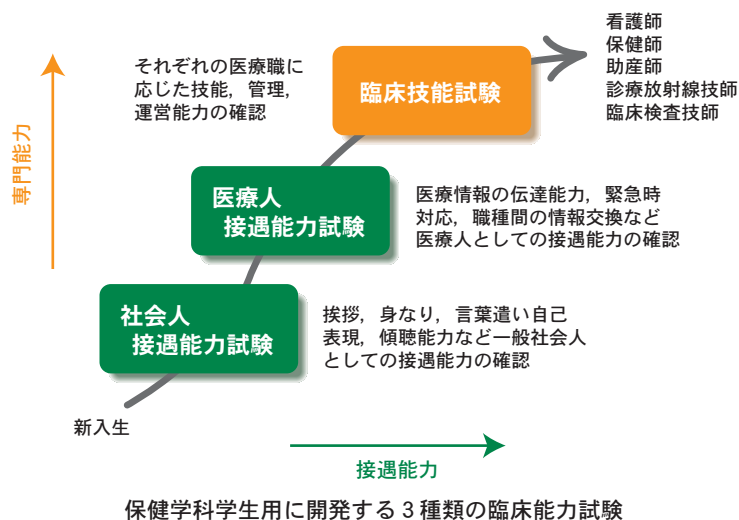
昨年4月には、保健医療活動において指導的役割を果たして先端医療に貢献できる高度専門職者を育成するため、大学院保健科学教育部(修士課程)を設置しました。これに合わせた実習・実験設備の充実を図るための概算要求も採択され、保健科学教

育支援システム(アドバンスド・ヘルスアセスメントシステム、生体機能解析支援システム、細胞機能・携帯解析システム)が導入されました。教育・研究の高度化が期待されます。現在さらに保健学分野の教育・研究者育成のため、大学院博士課程設置を目指して準備を進めています。

昨年度は保健学科4年間の実績を踏まえて自己点検・評価を行い、これに基づいて外部評価を受け、カリキュラムを見直し改正しました。医療人は専門的知識・臨床技能を身につけることはもちろん重要ですが、対人コミュニケーション能力が要求されます。患者さんと接触する機会は、看護職だけでなく診療放射線技師や臨床検査技師でも近年増えています。また、チーム医療の重要性は益々高まっています。今年から看護学専攻学生が現代GPの保育所実習に参加しており、来年からの他専攻への導入も検討しています。加えて、学生諸君が臨床実習で直接患者さんに接触するまでに、十分な臨床技能と接客能力の両方を獲得するような教育課程に改正することに、今年から3専攻一致して取り組むことになりました。

また来年度入学生から、保健学科看護学専攻では養護教諭一種免許、大学院看護学領域では同専修免許が取得できるコースを設置すべく、準備を進めています。

大学院では本学のがんプロフェッショナル養成の取組の一翼を担い、看護学領域では「がん専門看護師」、医用情報科学領域では「医学物理士」の資格取得を目指すカリキュラムを策定して来年度から開始します。



教育支援センター紹介

医学・医療の進歩、チーム医療や患者中心医療の重視を背景として、医師には、高いコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ならびに高度な情報収集能力が求められています。患者・家族への説明やチーム医療では、医師間の情報交換とは異なる次元のコミュニケーションスキルが必要であり、膨大な医療情報の中から患者の健康結果に結びつく情報を的確に抽出することも重要な能力です。この2つのスキルを涵養するためにPBLチュートリアル教育と診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ)が徳島大学にも導入され、6年経ちました。

海外の先進大学の視察などを通して、これらの新しい教育手法として万能ではなく、系統的な知識の習得には大講義室での従来型の講義形式が適しており、PBLチュートリアル教育では、論理的なものの考え方、学習の仕方に関する指導に力を置くべきと最近では考えられるようになってきました。また、クリニカルクラークシップでは、学生に単に医行為の真似事を体験させるのではなく、診療チームの一員として一定の役割を持たせて、診療の過程に関わらせることの重要性が指摘されています。これらの新しい医学教育手法の遂行には多くの教員の膨大な尽力が必要です。そして、学生のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は以前に比べ向上しているように見えますが、残念ながらこれらが評価の対象外である医師国家試験の合格率

教育支援センター 副センター長 三笠 洋 明



後列左から、泉センター長、三笠副センター長、谷副センター長、カルビ助教、赤池副センター長
前列左から、泊事務補佐員、松下事務補佐員

は低迷しています。

教員と学生の相互評価と国試を含めた様々な試験成績などの情報をリンクさせ分析することで、教員や学生の努力を無駄にしない、望ましい医学教育のあり方を模索し、継続的に改善を続けて行きたいと考えています。

学務課紹介

この度、医学系総合実験研究棟Ⅱ期改修工事の完成に伴い、学務課が基礎A棟1階の新事務室に移転しました。新事務室は学生の皆さんが利用しやすい場所に設けられ、広く明るく開放的な装いの部屋で、「電子掲示板」や「諸証明の自動発行機」も設置されるなど医学部学生の利便性が高まりました。また、移転を契機に事務処理体制も見直し、従来、医学科・栄養学科と保健学科関係に分かれて事務を行っていましたがこれを統合し、一元的に処理する体制にするなど、一層の学生サービス

学務課長 西 野 泰 正

や教育支援サービスが提供できる環境が整いました。

学務課職員は、学生が大学の主人公であり、学生はお客様であるとの気持ちで接しておりますので、お気軽に事務室に立ち寄っていただき、少しでも大学生活が快適に過ごせるよう積極的に学務課をご利用ください。私達は、学生さんや教員皆さまのお役に立てるよう専門的知識の修得に努めるなどベストを尽くして頑張りますので、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



学術交流協定校からの訪問

テキサス大学医学部生の訪問

医学科長 泉 啓 介

今年も6月13日-15日の3日間、夏休みを利用してテキサス大学医学部から2年生のレネ・A・コロラド君（MD-PhD コースでニューロサイエンスを専攻）とマイケル・H・バイク君、1年生のアイザック・チュア君が昨年同様アニール・D・クルカーニ教授の引率で本学医学部を訪れた。研究部長表敬訪問のあと



前列左より2人目 レネ・A・コロラド君、
中列右より アイザック・チュア君、アニール・D・クルカーニ教授、
後列右 マイケル・H・バイク君

剖検症例の検討会に参加してもらったが、2年生のバイク君が投影された腎臓の組織像を見るなり、「あれは糖尿病性腎症だ。習ったばかりだ。」と私に小声で話しかけた。彼は本学でいえば3-4年生にあたるが、なかなかやるなど感じた瞬間である。14日は学内見学、教授会議での挨拶のあとカフェテリアで歓迎パーティーが開催された。今年はたまたまモンゴル健康科学大学学生の訪問と重なったために、15日の夕方にプレゼンテーション&ディスカッションの時間を設け、米国・モンゴル・本学の医学科生にそれぞれの国や学生生活の紹介をしてもらった。本学の3年生が部活動やアルバイトや居酒屋で過ごす時間の長さを紹介した時にはさすがに両国の学生とも驚いたようである。後日、授業以外の1日あたりの勉強時間（主に基礎医学）をアンケート調査してみたが、テキサス大学5.2時間、モンゴル健康科学大学3.8時間、徳島大学1.4時間であった。なお、テキサス大学の場合、授業出席率は約10%であり、これに自宅・図書館で勉強するe-ラーニング分の約5時間が加算される。写真は15日に本学6年生とテキサス大学からのメンバー4人が藍染めを体験した時のものである。最後に、今回の訪問に際し、事前の打ち合わせから始まって頻回の予定変更、計画等に尽力していただいた村澤医学部長補佐に感謝したい。

モンゴル健康科学大学バイエル君のホームステイ日記

地域医療学分野 谷 憲 治

バイエル君（HSUMの5年生）が我が家で過ごした4泊5日は、家族全員にとって忘れることのできない貴重な思い出となった。彼は、昨年私が本学の医学生たちとモンゴルを訪問したときに世話をしてくれた学生の一人だったこともあって、今回のホームステイの依頼は喜んで引き受けさせていただいた。家族の一員として、夜は食事をしながら、またアルコールを飲みながらお互いのことを語り合った。話の途中で「ちょっと聞いてくれ」と、突然モンゴルの歌を歌い始めたり、踊り出したり。初日からすでに我が家の20歳と14歳の息子たちよりリラックスして過ごしていた。私の妻に対しては「My mother」と呼び、少し姿が見えないと「Where is my mother?」と捜す幼さを妻もまんざらではない様子であった。ジョークが好きなので、「俺の彼女はミス・ウランバートルで、1年かけてくどいてゲットした」とか「野菜が食べれないのは、幼少の頃大声で泣いている俺をだまらせるために姉が俺の口に玉ネギを丸のままつこんだのがトラウマになっているからだ」と言っていたのも今思えば真実かどうかは分からない。うちの長男を「My younger brother」と呼び、深夜は一つの部屋でいろいろと語りながら過ごしたようだ。毎朝の彼はパンツ一枚のあらわな姿で、目覚めが大変

悪くふとんから起こすのに苦労した。6月17日はフリーデーであったので、昼は家族で鳴門へ観潮に出かけ、夜は長男がバドミントンの練習に連れて行った。帰国の前夜、彼はお別れの挨拶に我が家を再び訪れてくれた。家族一人一人とハグをしながら御礼の言葉をささやく彼の目にはキラリと光るものが見えた。バイエル君、しばしのさようなら。卒業したら徳島大学で医学研究をしたいという君の夢がかなうことを心から願っている。（写真中央がバイエル君）



モンゴル学生との交流

医学科5年 河南 真吾

昨年僕らに素晴らしい思い出を作ってくれたモンゴル医学生が、ついに徳大にやってきました！新設された「くらら」での歓迎夕食会で阿波踊りをしたり、病院実習を一緒に回ったり、昼敷きの下宿アパートに泊まってもらったり…大変なスケジュールでしたが、日本の医療や医学生生活を肌で感じてもらったのではないのでしょうか。他国の医学生と交流することで、日本の将来の医療を担う僕らも刺激を受け、多く学ばされます。そのような機会が後輩にも続いていけばと思います、滞在2日目のディスカッションには有志の3年生に参加してもらい、モンゴルとテキサスの医学生を前にプレゼンをしてもらいました。その感想の一部を紹介します。

Q；ディスカッションに参加すると決めたとき、どんな気持ちだった？

「他国の医学生と知り合う機会は滅多に無いので、友達になれたら良いなって思いました。」

「私は英語があまりできないので不安でした。」

Q；英語でのプレゼン準備は大変だった？

「日本独自の事を発表しようと頑張りましたが、やっぱり英語の発表は難しかったです。」

「毎日を当たり前で過ごしていたので、いざ学生生活の中で日本らしさを探すとなった時が難しかったです。」

Q；彼らと交流してどんなことを感じた？

「一番感じたのが英語力の違いでした。テキサスの医学生は勿論ですが、モンゴルの医学生も英語で自分の意思表示がさらっと出来ていて自分の英語力の低さを痛感しました。また自分の意見をはっきり言える点でも違いを感じました。」

今回のように3ヵ国集まったのはとてもよかったです。国によりカリキュラムに大きな違いがあり、医学生の雰囲気やモチベーションにも違いがあることが分かりました。プレゼンをしてくれた西川君、黒川君、能智さん、長谷川さん、本当にありがとう！また期待してるよ。HSUM との交流が徳大の新しい伝統として引継がれることを願っています。

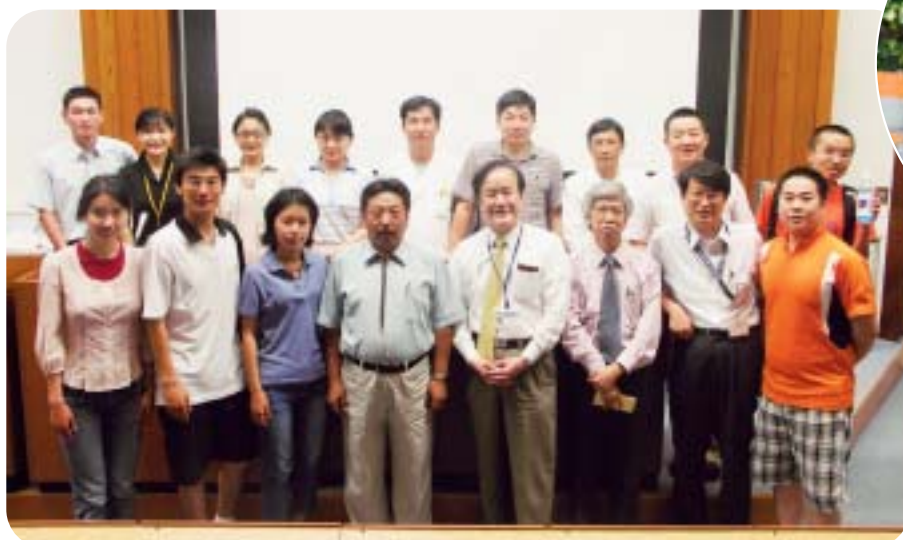
モンゴル学生との9日間

医学科5年 近藤 可菜

私の家ではモンゴルから2人の留学生を受け入れました。彼女たちと過ごした9日間はとても刺激的でした。それは彼女たちにとっても同じだったようです。私たち日本人がアメリカでホームステイするのと、彼女達モンゴル人が日本でホームステイするのでは、また違う感覚であったように思います。

ある晩は彼女たちが私の着物を着て和室で写真をとったり、休日には京都に出かけたりと、なるべく日本らしい毎日を過ごしました。彼女たちは写真が大好きなようで、最新のデジカメで全ての出来事を写真に撮っていました。

そして見知らぬ場所です小さくなりがち日本人と違い、モンゴル学生たちは常に積極的でした。やってみたいこと、知りたことはすぐにアピールして、堂々としていました。彼女たちとの9日間は私にとっても日本の文化や医療を見つめなおす貴重な日々となりました。



オープンキャンパス

医学科

平成19年度（8月3日午前）の医学科オープンキャンパスは、台風5号の接近で開催が懸念されましたが、当日早朝に気象警報も解除され、県内のほか兵庫、高知、カナダなどから232名の参加者を得て、無事に終えることができました。台風の余波で来県できなかった方もかなりおられたようです。大塚講堂で入試の概要説明と医学科紹介の後、佐々木教授、北川教授によるミニ講義があり、その後、5班に分かれて施設見学（足立、勢井、福井清、木戸、原各教授の研究室及びスキルラボ）が行われました。アンケートでは、1、2年生が大半を占めたものの、入学したい気持ちが高まったとの回答が多数ありました。ご協力頂いた先生方と事務方に厚く御礼申し上げます。
佐野 壽昭



栄養学科

平成19年8月2日午前に開催しました。長井記念ホールで宮本学科長の挨拶、平成20年度入学者選抜の概要説明および質疑応答（武田）、ミニ講義「飛躍する栄養学科」（武田）、ミニ講義「食中毒に気をつけていますか」（高橋准教授）を行いました。栄養学科棟へ移動して研究室および卒業研究発表会を見学し、最後にアンケート調査を行いました。受験生203名、保護者44名、教諭3名の計250名の出席でした。アンケートでは、受験の情報が十分に得られた、説明や研究室見学により栄養学科の目的や活動が理解できた、食中毒の講義が良かった、等により入学を希望する意見が多かった。以上より、オープンキャンパス実施の目的は達成できたと思われました。
武田 英二



保健学科

8月2日午後の開始予定時刻を前に、台風の接近に伴い風雨が強まり、参加者の帰路の交通手段確保が危惧されたため、やむなく、講堂での全参加者を対象とした学科・専攻紹介のみを行い、保健学科棟の施設見学、各専攻別相談会を中止しました。悪天候の中、過去最高の295名の高校生が参加され、席が不足しご迷惑をかけました。学科長による保健学科教育および入試委員による選抜方法の説明に続き、専攻主任による各専攻の学習内容、進路などについてスライドを用いた熱の籠もった説明があり、学科の理解に役立つものと思います。午前中に行われた看護学専攻体験入学には40名の参加があり、2コースに分かれて講義・実習を体験しました。今回は不十分な専攻紹介となり残念でしたが、保健学科に関心をもつ高校生が増加していること、その熱意を知ることができ有意義でした。
前澤 博



医学部行事予定（平成19年10月～平成20年3月）

10月1日(月)	後期授業開始	20年	
10月16日(火)	解剖体慰霊祭	1月上旬	第60回診療放射線技師国家試験願書受付(1月中旬まで)
11月2日(金)	徳島大学開学記念日		試験日：3月上旬
11月2日(金)	大学祭(4日(日)まで)		第54回臨床検査技師国家試験願書受付(1月中旬まで)
11月16日(金)	第102回医師国家試験願書受付(12月6日(木)まで)		試験日：3月上旬
	試験日：2月16日(土)～18日(月)	中旬	第22回管理栄養士国家試験願書受付(1月下旬まで)
11月28日(水)	第91回助産師国家試験願書受付(12月19日(水)まで)		試験日：3月下旬
	試験日：2月21日(木)	19日(土)	大学入試センター試験(20日(日)まで)
	第94回保健師国家試験願書受付(12月19日(水)まで)	3月24日(月)	卒業式
	試験日：2月22日(金)	26日(水)	助産師、保健師及び看護師各国家試験合格発表
	第97回看護師国家試験願書受付(12月19日(水)まで)	28日(金)	医師国家試験合格発表
	試験日：2月24日(日)		*診療放射線技師及び臨床検査技師国家試験の合格発表は、4月上旬
12月25日(火)	冬季休業(1月7日(月)まで)		管理栄養士国家試験の合格発表は、5月上旬

徳島医学会報告

食品機能学分野 寺尾 純二

本格的な夏が到来した8月5日に第235回徳島医学会学術集会が阿波観光ホテルで開催された。今回の担当は小児医学分野（香美祥二教授）と食品機能学分野（寺尾）である。午前のシンポジウムは「健康食品を医学・薬学から考える」と題して、薬学系と医学系の講演者4名が健康食品の現状とその問題点をご専門の立場から鋭く指摘された。続いて統合生理学分野・勢井宏義教授より教授就任記念講演をいただいた。先生の今日に至る研究の発展を「睡眠・サーカディアンリズム機構から見た血圧調節」として見事にまとめた講演であった。昼食をはさんで合計30題のポスター発表の討議が熱心に行われた後に、前回の学術集会で徳島医学会賞を授賞された平坂勝也先生（生体栄養学分野）と笠原正臣先生（寺沢病院）の受賞者記念講演が催された。最後の学術プログラムは市民への啓蒙を兼ねた公開シンポジウムであり、香美教授のお世話により「小児医療の新しい流れ」と題して、小児の疾病をめぐるさまざまな問題点や医療法の進歩が7名の小児専門医によって報告された。一般の参

加者にとってもこどもの医療をみつめるよい機会になったと思われる。最後の懇親会では徳島大学医学部と徳島県医師会の親睦を深めて集会は無事に終了した。ご協力いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。



第59回西日本医科学生総合体育大会

(2007. 7. 30~8. 12)

バドミントン

個人戦

優勝

笠井 飛鳥 (医学科5年)
大山 拓朗 (医学科4年) 組

ソフトテニス

個人戦

3位

小林 愛貴美 (医学科5年)
五藤 みづ帆 (医学科2年) 組

水泳

女子 50m 背泳ぎ

2位

三崎 万理子 (医学科5年)

女子 100m 背泳ぎ

3位

三崎 万理子 (医学科5年)



右から大山さん、笠井さん

蔵本キャンパスの「食育」を応援します

「生協 Cafeteria くら・ら」が誕生して6ヶ月、おかげ様で、多くの方々にご利用いただきありがとうございます。くら・らは小さい厨房、ミニショップと40弱の席数とオープンデッキがあり、医学部研究棟の1階にあります。営業時間は朝8時～夜8時。朝食はモーニングはじめ4種類で特に鮭定食350円は人気です。お昼時は、週替わりメニュー丼が中心でから揚げ中華丼、韓国風焼肉丼、ハンバーグロコモコ丼、もちろんカレー、マイルドハヤシライス各360円も大人気です。夕食はくらら定食A、Bを日替わり500円で提供しています。時々限定でオムライスセットも登場することもございます。栄養価表示（赤、緑、黄、塩分）もしており、1日必要な栄養価の目安にもなります。

ドリンクは、泡立ち珈琲が160円で（コロンビアのハードORGANICの豆を使用しています）こちらも人気がございます。

新規メニューづくりには、試食会などを行い学生さんたちのご意見もいただき、いっしょに「食育の提案」をしていきたいと思っております。（生協 Cafeteria くら・ら 店長 鈴木）



第2期工事について

医学部長補佐 玉置俊晃

医学科基礎研究A棟の第2期改修工事が終了した。第1期工事に連動して外装は落ち着いた上品な仕上がりになった。この第2期工事では、A棟の耐震強度を強化するだけでなく、医学部の新しい玄関が造られた。また今回の第2期改修工事により、医学部長室・HBS 研究部長室、教授会を開催する第1会議室、総務課・学務課などの医学部運営の中核部門が一新された。これまでの第1会議室は、医学部教授会だけに対応していたが、新設された第1会議室はHBS 研究部教授会を開催する際にも使用出来る仕様になっている。十分な広さが確保されており、100名程度の会議や研究会にも使用が可能な作りになっている。さらに、医学部の運営を支えている事務部門が玄関周囲に集中して配置されていることも機能的で良い。

国立大学法人に関するニュースは、何かと暗いニュースが多いなかで、今回新設された玄関は非常に明るい。徳島大学医学部の未来の明るさをあらわしているように思えて、喜ばしい。玄関には、医学部と医科学教育部(大学院)の看板だけでなく、ヘルスバイオサイエンス研究部の看板も掲げられている。医学部が、蔵本地区の研究・教育の中心であることを誇っているようで頼もしい。以前の医学部玄関は、入っても人影はなく部屋の壁が目に飛び込んでくる愛想のない玄関であった。新しい玄関を入ると壁が少なくガラス戸が多くて非常に明るく、人影も多い。右側には学務関係の部屋があり、事務の方々や学生が目

入る。左側は生協のカフェテリアになっており、学生や職員が食事やお茶を楽しんでいるのが、視界に飛び込んでくる。このカフェテリアは、屋外のオープンカフェテリアに続いており、開放的で洒落な雰囲気を醸し出しているカフェテリアで学生にも好評である。夕方からは、ワインのサービスもするそうだ。教員と学生の距離を縮める場所として活用出来そうだ。徳島大学や徳島大学病院を訪れた皆様は是非一度、明るい医学部の新玄関を見学して欲しい。



無線LANについて

コンピュータに関連した知識や技術は、テレビや新聞・雑誌で紹介されているように電子カルテや各種診断装置などに幅広く応用され、医療関係者にとって必要不可欠なものになっています。日本の医療技術は世界の中で最先端といっても過言ではありません。

世界で通用する医療従事者を育てるため、医学部では、速い進化を続けるIT社会に対応できるように、また、対応できる人材を育てられるよう建物の改修工事に伴い、医学部基礎学実験研究棟にも無線LANの装置を各所に設置いたしました。

21世紀は、24時間止まることのない時間や場所を越えたボーダレスの世界が生まれようとしており、今後、インターネットを利用した講義など、医学教育にも時代に沿った変革が求められています。しかし、最近では携帯電話の普及により、家に一般電話回線を引かない学生も多くなってきたため、高速のインターネットが気軽に利用できる場所が必要とされています。

医学部では、ユビキタス・ネットワーク(コンピューティング)のそうした時代に対応した教育の場を学生・教員に提供することを目的として、無線LAN環境の充実を推し進め、教育の環境や体制の整備、学生生活のサービス向上を目指しています。

玄関ホールや講義室近辺の屋外など、講義室や実習室に限らず、いつでも・どこでも(ユビキタス)、パソコンからインターネットに接続することができます。例えば、新しくできたオープンカフェではコーヒーを飲みながら、授業スケジュールの確認や講義資料のダウンロードなどをしたりできるのです。

先端医療技術支援センター IT管理室 吉田英次

無線LANの接続可能エリアは、今後とも引き続き拡大させていく予定で、接続可能なエリアにはそのことを示すマークを掲示します。

(図-1: 9月現在の無線LAN接続可能エリア)

(図-2: 無線LAN接続可能エリアを示すマーク)



図-2

図-1

数字で見る医学部

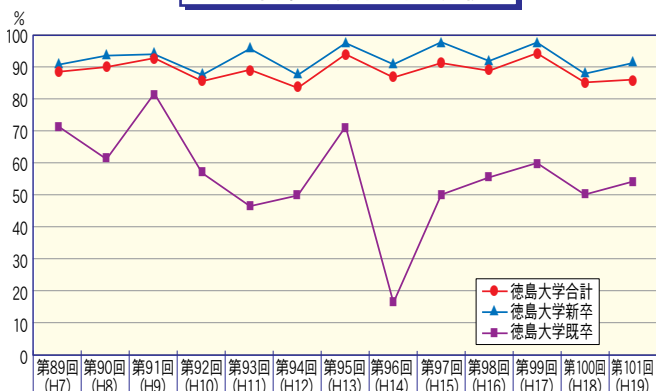
◆ 入学試験（医学・栄養・保健）

平成 19 年度 徳島大学医学部入学試験受験者・合格者数調・入学者数調

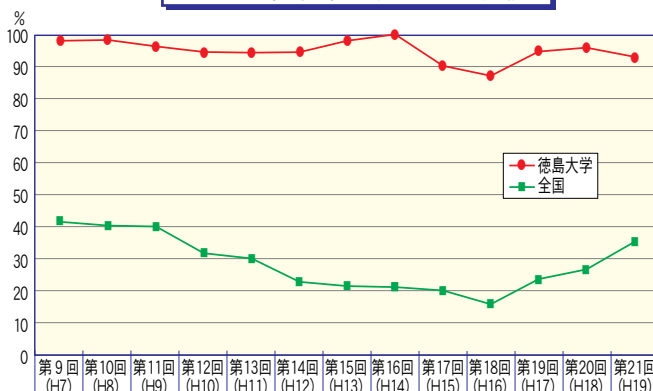
	定員	志願者	受験者	合格者数	入学者数	男	女	県内	県外	海外	現役	一浪	その他
医 学 科	95	691	399	96	95	63	32	27	67	1	43	29	23
栄 養 学 科	50	201	117	53	52	5	47	16	36	0	43	6	3
保健学科	看護	70	300	203	74	70	3	34	36	0	61	9	0
	放射	37	122	87	40	38	30	6	32	0	32	3	3
	検査	17	91	73	20	18	6	8	10	0	12	5	1

◆ 国家試験

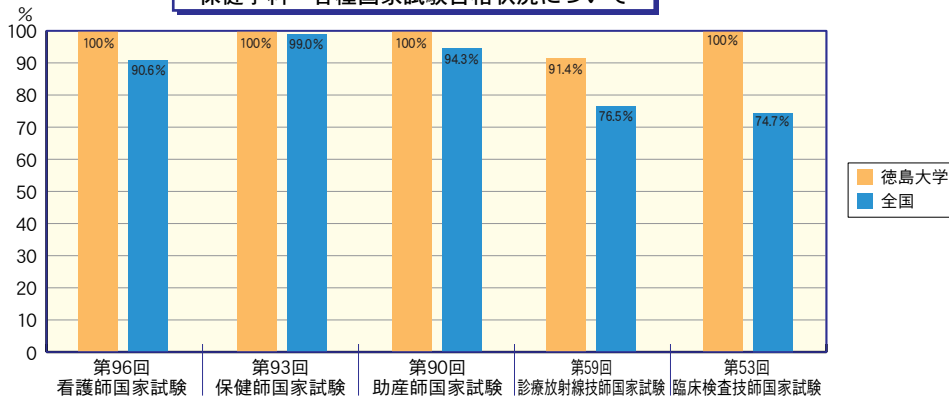
医師国家試験合格者の推移



管理栄養士国家試験合格者の推移



保健学科 各種国家試験合格状況について



◆ 科学研究費補助金採択状況（医学部・附属病院の合計）

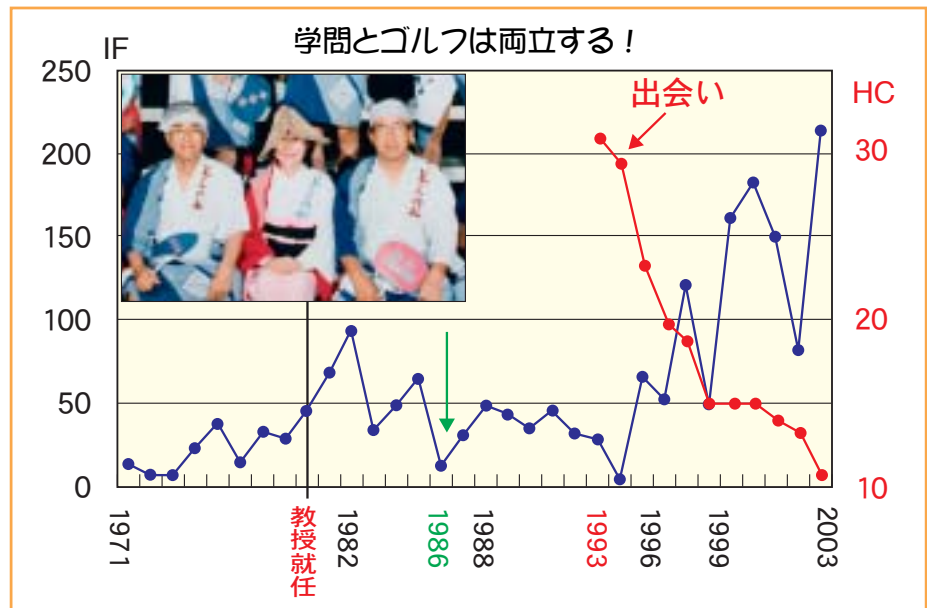
(平成 19 年 7 月 1 日現在)

研究種目名	平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
特定領域研究 (2)	7	78,900	9	83,500	11	60,800	9	67,200	8	63,200
基盤研究 A (2)	0	0	0	0	1	18,590	1	14,430	1	14,430
基盤研究 B (2)	20	96,500	21	102,350	18	96,100	21	143,950	15	97,890
基盤研究 C (2)	59	92,600	68	100,800	59	89,500	59	98,200	63	127,660
萌芽研究	8	10,700	10	16,800	10	17,900	10	16,400	6	10,200
若手研究 (A)	1	8,700	1	7,400	1	8,710	2	14,690	3	24,830
若手研究 (B)	32	49,300	38	58,900	55	89,900	56	93,900	51	75,000
若手研究(スタートアップ)							1	1,300	2	2,270
特別研究促進費							1	2,200	0	0
特別研究員奨励費	4	2,922	3	3,000	0	0	4	3,800	4	3,600
合 計	131	339,622	150	372,600	155	381,500	164	456,070	153	419,080

きっかけとは不思議なもので昭和61年に内科講師を拝命した同日、就任された2代目小倉剛教授から「これからはゴルフや！」の一言で、それまでのゴルフ禁制から研究+ゴルフへと急転回。学生時代に柔道初段となったが、特にスポーツらしいこともせず仕事一本。これからの長いお付き合い、頑張るしかないとの決意。医局長拝命後、ストレス解消のためにボールをトラック一杯打ちまくったのが功を奏し、周囲の期待とは裏腹に腕も上がり、心技体の感慨を味わうことも経験できた。平成6年、現在の教授職を拝命し、医学部ゴルフ部長を引き継いだ。ゴルフ部の学生はコーチと監督の良き指導で成長ぶりが実に頼もしい。強敵となる学生が現れラウンドするのも楽しみの一つ。今、歩いてのゴルフ、バックティーからのゴルフが信条でいつまで続くか挑戦中。

ゴルフは自分との戦いであり、体力、技術以上にメンタルスポーツ。ゴルフはその人の性格や姿勢、考え方が如実に表れるスポーツでもある。ゴルフは常に、変化する場面での判断、決断、実行を自ら行い、結果が出るという繰り返しであり、体力、冷静さ、忍耐なくして成長はない。まさに人生そのもので、状況に応じた頭の切り替え、集中力の重要性を学んだ。ゴルフを通して実に多くの方々と出会えるのも楽しみだ。同志と呼ぶべきか、ゴルフ道を歩む人と一度ラウンドするとすぐに意気投合出来るのも素晴らしい。最も強烈な出会いは、谷口 克先生(理科研免疫アレルギー総合研究センター長)で、HCが32の時に出会い、千葉大医学部長4年間HC12になったという努力家。その期間は論文のインパクトファクター(IF)値が急上昇とい

谷口先生の千葉大学在任中のゴルフ(HC)と研究(IF)のactivity



う事実に驚かされた(図)。同じく強烈な出会いはシングルプレーヤー自称の本庶 佑教授(現在、総合科学技術会議員)との2時間に及ぶゴルフ談義。バターは縦、横にボール10個が一行に並ぶまで練習する徹底ぶり、生化学者としてゴルフ道への取組は別格と言える。留学時出会った癌研化学療法センター長の鶴尾 隆先生との交誼や、蛭名洋介教授(疾患酵素研七)の音頭でスタートした「4人の会」で産婦人科学会プロゴルファーと評された豊田長康三重大学長と春日雅人神戸大病院長との切磋琢磨は10年以上続いている。他にも国内外で数多くの知己を得た。印象に残る同志の方々はすべて、ゴルフをスポーツとして捉え、学問と両立させていることにあり、お付き合いを続ける中で学ぶべき事が実に多く、感謝している今日この頃である。

電子ジャーナルの適正利用について

附属図書館情報サービス課

居ながらにして最新記事にアクセスできる電子ジャーナルはもはや大学の教育研究に欠かせないものとなっていますが、その利用にあたっては著作権法や提供元(出版社)の利用規約等の厳守が求められます。特に以下のような行為は如何なる場合も禁止されています。

- 個人の学術研究または教育以外の目的への利用
- 個人利用の範囲を超えた大量データの一括ダウンロード
- ダウンロード支援ソフトウェアやツールの使用
- 複製や再配布

提供元では常にアクセス状況を監視しており、不正利用を認められた場合は警告を行い状況調査や対応策の回答を求めます。残念ながら、徳島大学では年に2,3回程度大量ダウンロード等で警告を受けることがあります。

行為が悪質であったり防止が不十分とみなされた場合、行為者のみならず大学全体の利用が停止され、さらには損害賠償を請求される恐れがあります。その場合、徳島大学は学術情報の基盤を失い教育研究の遂行に大きな打撃を被ることになります。

利用者におかれましては、適正な利用を徹底していただくよう、お願いいたします。

新任教職員あいさつ



統合生理学分野 教授 勢井 宏義

平成19年1月1日付けで、森田雄介前教授の後任として、統合生理学分野の教授を拝命しました。私は、神経生理学の講義・実習を担当すると共に、睡眠や生体リズムなどを中心に、高次脳機能に関わる研究を行なっています。今、医学科の後輩たちを見てみると、CBTや研修制度が導入され、科学的な興味から研究に携わってみるという機会が少なくなってしまうように感じます。とどまることのない医学教育変革のなか、学生の時にこそ持てる「生きていることの理(メカニズム)」についての純粋な疑問や好奇心を大切にしていってほしい。そして、研究心あふれる医師やコメディカルスタッフになってほしい。そのような気持ちで教育研究に携わっていきたいと思っています。ご高配のほど、よろしくお願ひいたします。



保健学科看護学専攻 教授 近藤 和也

4月1日より保健学科成人・高齢者看護学講座教授に就任しました近藤和也です。昭和59年に本学を卒業し、第2外科(現病態制御外科)に入局し、門田名誉教授のもと、呼吸器外科医と腫瘍外科医の研修を受けました。この間、肺癌及び胸腺上皮性腫瘍の生物学的特性を研究し、臨床では、根治性のある低侵襲手術を心がけています(中心性早期肺癌に対する蛍光気管支鏡検査や末梢性の早期癌に対するCTガイド下コイル・マーキング+胸腔鏡手術)。平成18年6月より徳島大学病院がん診療連携センター長を務める中で、がんに対する“チーム医療”の必要を実感しました。現在、保健学科の一員として、“care”と“cure”のバランスがとれた医療を目指すため、両方を兼ね備えた看護師およびコメディカル・スタッフの育成に努力しています。



保健学科検査技術科学専攻 教授 細井 英司

4月1日より保健学科検査技術科学専攻機能系検査学講座の教授に就任いたしました。私は平成2年に保健学科の前身であります医療技術短期大学の助手として採用され、今年で18年目を迎えています。

近年、医学の進歩はめざましく、臨床検査へのニーズも多様化・専門化しており、これらのニーズに迅速かつ正確に対応できる臨床検査技師の養成が急務となっています。また教育現場では短大の教育から4年制大学へ、さらに大学院での教育・研究の充実によって、医療現場で指導的役割を果たすことのできる臨床検査技師と教育研究者の育成が行われています。私はこれまで以上に努力し、知識と技術に優れ、医の倫理をわきまえた学生の育成をはかりたいと考えています。ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。



医学・歯学・薬学部等事務部長 宮本 敏克

本年4月に愛媛大学医学部総務課長から、本学の医学・歯学・薬学部等事務部長に採用になりました。出身が徳島県ということもあり、本学は最も親しみを感じている大学の一つであります。国立大学法人は1期目(6年間)の折り返し地点を過ぎ、平成20年には暫定評価があり、また資金面においても競争原理が導入されるなど、大学を取り巻く環境は益々厳しさを増しております。

学内においては、学生サービス支援業務の中心である学務課も第二期改修工事により整備され、充実した支援業務ができる環境となりました。事務部一丸となって教育及び研究の支援業務に取り組んでまいりますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



生体栄養学分野 二川 健

平成19年9月1日より、岸 恭一前教授の後任として、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体栄養学分野(旧栄養生理学講座)を担当させていただくこととなりました。私は、昭和62年に徳島大学医学部を卒業後、ドイツ留学期間を除くすべてを徳島大学で過ごしてきました。この間、多くの素晴らしい先生方や友人達に恵まれ、格別のご指導とご厚情を賜りましたこと心より御礼申し上げます。なかでも平成6年2月から栄養学科で過ごした期間は、私の研究・教育生活に大きな影響を与えてくれました。熱心な学生と夜遅くまで実験や議論したことやライフワークとなりうる研究テーマ(宇宙生物学)に出会った喜びなどは、何物にも換えることのできない私の宝物です。こういった活気のある環境で、ひきつづき教育・研究に携われることは身に余る光栄です。栄養学科はもう直ぐ創立50周年を迎えます。その伝統を汚すことなく、さらなる発展のため、教育及び研究に全力を尽くす所存です。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



国際公衆栄養学分野 酒井 徹

平成19年9月1日付けで、山本茂前教授の後任として、国際公衆栄養学分野教授として赴任いたしました酒井徹です。私は、平成2年に本学栄養学科を卒業、平成7年には栄養学研究科博士課程を修了し、その後本学医学部助手(寄生虫学講座(現 生体防御医学分野)および実践栄養学講座(現 国際公衆栄養学分野))、大阪府立大学助教授を経て今日に至っています。研究面では、免疫・感染防御学を基盤とし栄養と免疫機能に関する研究を進行すると共に、人々の健康問題を栄養学的な視点から解決を図る公衆栄養学的な研究を新たに開始する予定です。徳島大学医学部栄養学科は、我が国で唯一の医学部にある栄養学科であり、また研究面でも他の管理栄養士養成校に比べ秀でた存在です。栄養学科の卒業生の一人として母校の発展に寄与できるよう微力ながら努力して参りますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

新任 准教授 紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属	異動年月日	異動内容	氏名	所属
H 19. 4. 1	採用	馬 寧	機能解剖学分野	H 19. 4. 1	採用	奥田紀久子	保健学科 看護学専攻
H 19. 4. 1	配置換	安井 敏之	女性医学分野	H 19. 4. 1	昇任	梅野真由美	保健学科 検査技術科学専攻
H 19. 4. 1	採用	今中 秀光	救急集中治療医学分野	H 19. 5. 1	昇任	森 健治	小児医学分野
H 19. 4. 1	昇任	先山 正二	病態制御外科学分野	H 19. 5. 1	昇任	友竹 正人	精神医学分野
H 19. 4. 1	採用	安齊 眞一	皮膚科学分野	H 19. 5. 1	昇任	宇野 昌明	脳神経外科学分野



退職に際するご挨拶

予防環境栄養学分野 教授 太田 房雄

私は昭和42年に当医学科を卒業後、学生運動の真っ直中大学院に、昭和47年4月から現医学部細菌学講座の助手、昭和58年英国から帰国した直後現歯学部口腔細菌学講座の助教授、平成2年に旧栄養衛生学講座（現大学院ヘルスバイオサイエンス研究部予防環境栄養学分野）の教授に任命されました。この間40年の歳月が流れ、周囲には親しい友人も同級生もいなくなった今、正規の定年退職までには少し日時があるのですが、郷里の会社から強い誘いを受けて第二の人生に向けて退職することにしました。

思い起こせば、約5年間海外（カナダ、英国、イタリア）で

の研究生活を含めて40年余り、医学、歯学、また少し肌色が異なる栄養学の場に在籍し、種々転々とした教育・研究生活でした。この間、それぞれの場で教員の方々や事務部の方々にも親しくしていただいた良い思い出があります。中でも齋藤史郎前学長の下、当時の仕名野学生課長のお世話になりながら、大学院英語特別コース開設ができました。この延長線上で、本年6月から7月にかけてエチオピアのゴンダール大学との学術交流協定調印が成就し、大学での活動には思い残すことはなく、ただただ皆様からのご厚情に対し厚く御礼を申しあげるのみです。

末節となりましたが、徳島大学の皆様には今後の活躍とご発展をお祈りいたします。

平成19年度 6年生OSCE成績優秀者



最優秀賞

岡田 歩

優秀賞

井澤 恵 大西 健 加藤 繭子 中西 悦郎
 邊見宗一郎 三浦 弘之 野上 浩子 宮井 優
 森本 雅俊

部門賞 評点評価部門

柿本 真利 金井 千恵 西原 祐美 河崎 敏弘
 林 伸

部門賞 概略評価部門

大西 康貴 岸 久美子 小林 史昌 佐竹 伸
 松本 規子 横山 愛子 乾 稚宏



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。（平成19年3月28日）
 ● 認証評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構 ● 認証期間：7年間（平成19年4月1日～平成26年3月31日）

編集 後記

今回の特集では、求められる医療従事者の育成をめざした医学部教育の取り組みを紹介しました。徳大医学部は医学科・栄養学科・保健学科において医師・栄養士・看護師・放射線技師・臨床検査技師を育成する全国的にも非常に充実した医療従事者の教育機関です。医療の主人公は患者さんであり、医療はチームワークにより成り立っています。患者さんの気持ちを理解し一人の人間として接することができ、他職種とのコミュニケーション能力を持ち合わせた思いやりと協調性のある医療従事者が求められています。もちろん、国家試験の合格は絶対条件であり、合格率向上も重要な課題です。

また、日本国内だけでなく国際的にも活躍できる研究者の育成も必要です。従って海外との交流も重要であり、今回は米国テキサス大学とモンゴル健康科学大学の学生および教員との交流を紹介しました。世界各国の大学との交流を通じて国際的な人材の育成が期待されます。

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
 広報委員 金山博臣(委員長)、福井義浩、勢井宏義、大下修造、太田房雄、齋藤 憲、森口博基、宮本敏克

本誌へのご意見・ご要望は、(第1総務係・榎谷)E-mail: isysoumu1k@jim.tokushima-u.ac.jp まで
 お願いします。なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9118 Fax: 088-633-9028

URL <http://www.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/university/servlet/index>